

令和 6 年 4 月 時点

## 能登半島地震の強震域における鋼製砂防堰堤健全度現地確認(速報)

(一財)砂防・地すべり技術センター 砂防技術総合研究所  
鋼製構造物研究室

令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震を受け、鋼製砂防堰堤主要メーカー 3 社の協力により、標記について実施し、取りまとめましたので、下記の通り報告します。なお、今後の地盤の変状及び追加調査により、結果が一部変わる可能性があります。

### 記

1. 鋼管を主要部材とする透過型(閉塞タイプ)構造<sup>※1</sup> について、健全度の確認(概査)がされたもの

(単位:基)

震度 <sup>※2</sup> (面積 <sup>※3</sup> )	合計
震度 5 強以上(2,169km <sup>2</sup> )	8/8 (全基数 8)
震度 5 強 (473km <sup>2</sup> )	4/4 (全基数 4)
震度 6 弱 (902km <sup>2</sup> )	4 <sup>※4</sup> /4 (全基数 4)
震度 6 強 (794km <sup>2</sup> )	-/- (全基数 0)

※1 「新編・鋼製砂防構造物設計便覧」(令和 3 年版)P.9 に規定されているもの

※2 QUIET+/地震動マップ推定システムによる計測震度相当値  
(<https://site.quietplus.kke.co.jp/>)

※3 ※2 のメッシュによる概算

※4 震度 6 弱地域の堰堤 1 基(図中赤枠)が溪岸崩壊により埋没し現認できていないが、直上流の鋼製堰堤より堤高が小さいため、地震動による影響は小さいと推定

以上



図 鋼製透過型砂防堰堤 位置図及び状況写真

地理院タイルに震源、堰堤位置・名称等を追記して作成  
 (写真提供: 日鉄建材株式会社、JFE 建材株式会社、株式会社共生)